



煤ヶ谷駐在所

厚木警察署
煤ヶ谷駐在所
編集*渡部

TEL 046-223-0110

防災意識の高揚

～家族で防災会議を行おう！！～

身元不明遺体の身元確認相談

県警察では、不慮の事故等でお亡くなりになり、身元が分からないご遺体の身元確認を行っています。

- ご家族やご親戚の方で
- 長期間にわたって音信不通である
 - 遺書や言動から自殺のおそれがある
 - 犯罪や交通事故の被害に遭っているおそれがある
 - 海や山で遭難事故の被害に遭っているおそれがある
 - 行方不明者を捜されている方は
 - 行方不明者の顔写真
 - 通院していた病院の診察券
 - 身体特徴（手術の痕、火傷の痕、ほくろの場所と大きさ、靴のサイズ等）
- などの身元確認の参考となる情報を用意してご相談ください。
- 相談窓口では、全国でお亡くなりになり、身元が分からないご遺体の資料を用意してご相談に応じます。

- ◎ 相談窓口
神奈川県警察本部刑事部鑑識課指紋第四係
045 (211) 1212 (内線4665)
- ◎ 相談受付時間
月曜日から金曜日（祝日、12月29日から1月3日は除く）
午前8時30分から午後5時15分
- ◎ 神奈川県警察ホームページで身元不明遺体の情報を掲載しています。
<https://www.police.pref.kanagawa.jp/>

月一八月三〇日から九月五日は「防災週間」、九月一日は「防災の日」です。自然災害から家族や自分の身を守るため、日頃の備えが大切で、大災害に備えたり、防災用品や食料品の準備をして災害に備えましょう。

日頃の備え

- ◎ 家族で防災会議を行いましょう
身の安全を確保できる場所を確認しましょう
- ◎ テーブルの下などの一時的に避難できる安全な場所はどこか、庭のブロック塀などの倒壊の可能性がある危険な場所はどこかなど、家族で確認しておきましょう
- ◎ 家具の転倒防止などの措置を行いましょう
家具の転倒防止のため、転倒防止器具で固定しましょう。また、万が一家具が倒れた場合に備え、安全な家具の配置をしましょう
- ◎ 地域の避難場所や避難経路の確認をしましょう
地域で定められている避難場所までの経路を歩いておきましょう
- ◎ 高齢者や子供のいるご家庭では、家族の状況に応じた避難手段を具体的に話し合っておきましょう。また、昼と夜では環境も変わってきますので、あらかじめ役割分担を話し合っておきましょう
- ◎ 家族との連絡方法を確認しましょう
災害が発生すると、被災地などへの通信が増加し、電話がつながりにくくなります
- ◎ 災害時には、災害用伝言ダイヤル「171」や「災害用伝言板（web171）」などの「災害用伝言サービス」を活用しましょう

事件記録板

6月中旬から7月中旬までの事件は、侵入盗等の犯罪の発生はありませんでした。

侵入盗の発生はなかったものの、特殊詐欺の被害の発生があったようです。皆さん是非、振り込み詐欺撃退電話機の導入をお勧めします。また高齢者の皆さん、大丈夫なんて高を括ることなく、生年月日を聞いたり、合言葉を事前に決めておくなど、多少の知恵と事前の準備があれば被害が防げます。震災や天災の広報文によく聞く「備えあれば憂いなし」というフレーズですが、防犯だけでなく振り込み詐欺の被害防止にも役立ちます。意味は「いざというときに備えて、あらかじめ準備しておけば、事が起こっても心配ない」という意味です。事前に家族会議で合言葉を決めておくなど準備すれば心配ないということです。どうか皆さん家族会議をするようお願いいたします。

駐在所の独り言

～環境から学ぶ日本の代表のモチベーションとは！！～

還暦も過ぎて、残された人生どう生きるかを考えるのが毎日の楽しみ。当然過去を振り返り、あれは良かったか、ああすれば良かったか反省や後悔もあっても、過去の行いや環境経験も含め全てが今後に生かされる可能性があるかと思っています。高校当時を思い出すと国士館高校に受験先に決めた理由は、信頼のある中学3年当時の担任の出身大学の付属校で、また警察官の希望、合格者が多い学校で警察官にさせられたのか父親の強い拘りの勧めがあったの入学です。入学すると驚く事ばかりでした。同級生の多くは体格が良く耳が餃子のように分厚く、これは奇形なのか、何故この学校の学生は同じ耳と体格をしているのか。特に耳の話はタブーで触れてはいけない事かと気遣って聞く事もなかったのですが、数日後に柔道部の訓練状況を見学して、とんでもない過酷な練習量で、これに耐える同級生らは、無論柔道部でした。全員ではないものの、柔道をする耳が餃子耳になる可能性がある事を知りました。高校は入学年度から全国大会で連続優勝し、今でも柔道の強豪校に変わりなく、今年は、高校、大学ともに全国大会で優勝したようです。恥ずかしい事に入学後に初めて柔道の強豪校である事を知りました。優勝した際は、オープンカーで優勝パレードをした記憶があります。同級生には、ロサンゼルス、ソウルオリンピックの9.5kg超級の金メダリストの斎藤仁がいます。後輩で言えば鈴木桂治や石井慧等々の金メダリストがいます。斎藤は54歳で亡くなっていますが、彼の息子は、彼の意志を継いで柔道部で今注目される斎藤立（たつる）君なんですね。彼は、身長191センチ、体重170キロと父親の学生当時と比較すると身長約10センチ高く、体重は約40キロ重いという異例の恵まれた体格なんですね。彼は、父親が逝くを思い亡くなる直前に見舞いに行った時のエピソードがあります。立くんが、父親ののころに行くところ、見舞いはいいから稽古に行けと怒られたようです。父親の言葉には、一瞬冷たく突き放しても思いますが、自己犠牲の覚悟と息子への深い愛情の強さが隠されているんですね。息子にとって最善の道を教えているんだと思います。同級生の仁とは、当時は色々話しましたが、印象に残った言葉は、試合前に優勝する可能性は？と聞くと、初戦から全て全力で挑めば、決勝では必ず天理高が上がるからこそ、本勝以上に入部や深い信頼関係の結びつきがあるんだと思います。勝敗に拘りながらも驕らず、冷静に自己分析と判断できるからこそ、本当の勝者になれるんだと思います。スポーツの多くは、実力と運というものがあって、日々の練習や体調も含めて運となり得ると思っていたのですが、少なからず柔道に関しては、実力が全てで、運に頼る甘えなどの隙間がないスポーツかと思うんです。斎藤とは、高校から大学まで一緒に高校での教科は違っても教育実習でも一緒でお互いの実習風景を見学しました。授業でも彼の前向きで固い意志と信念には感動させられ、この前向きな姿勢こそが勝利に繋がる事を学びました。彼の座右の銘は剛毅朴訥（ごうきぱくとつ）ですが、当に彼の正直な生き方まんまんなんですね。